





### プロの音色に感動 七夕コンサート

7月7日に恒例の七夕コンサートが開催されました。今回は茅茸きコンサートで有名なエルンスト・ザイラー氏に師事された坂東達氏、田中弥生氏とクラリネット奏者の新暁子氏によるコンサートでした。皆さんになじみ深いクラシックの曲を多数演奏していただきました。患者の皆さんはプロの奏でる音の迫力、音色の優しさに酔いしれ、時間のたつのも忘れて聴き入っていました。



### 阪大病院を見学してみませんか

大阪大学医学部附属病院では、本院を広く一般に知っていただくため、市民の皆様を対象として、下記のとおり見学会を実施いたします。

今回は、普段見ることのできない部署、医療を支える部署等を中心に企画いたしました。ぜひお気軽にご参加ください。新しい発見、新しい出会いがあるかもしれません。

- 対象者 一般市民(成人、個人)
  - 実施日時 10月14日(金)14時~16時30分
  - 募集人員 15人  
(応募者多数の場合は抽選により決定します)
  - 募集期限 9月26日(月)
  - 申込方法 はがき、FAXまたは電子メールで氏名、性別、年齢、郵便番号、住所、電話番号を記入のうえ申し込み願います。
  - 送付先 〒565-0871 吹田市山田丘2-15  
大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係  
FAX 06(6879)5019
  - E-mail [ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp](mailto:ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp)
  - 決定通知 応募者多数の場合は抽選により決定し、参加の可否をはがきで通知します。
  - 見学場所 ドクターヘリ、未来医療センター、MEサービス部、薬剤部など。  
(※都合により、見学場所が変更になる場合があります。)
- お問い合わせは、  
大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係  
06(6879)5020・5021

ホスピタルミニニュース

### 新任科長ごあいさつ



消化器内科科長  
竹原 徹郎

消化器内科は消化管(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸)、肝臓、胆嚢、膵臓などの多くの疾患を扱う診療科です。よくある症状「腹痛」の診断から最先端の治療まで行っています。特に、がん診療、内視鏡診療、肝炎・肝がん診療に力を入れています。患者さん一人ひとりに最適な診療を提供することを通じて、医療・医学の発展に貢献していきますので、何卒よろしくお願いたします。

(平成23年4月1日就任)



呼吸器内科科長  
立花 功

呼吸器疾患の診療ニーズは増加しており、WHOによると2020年の疾患別死亡順位の10位以内にCOPD、肺がん、肺炎、結核の四つが入ると推計されています。これら疾患の増加に対する診療体制充実の一環として、呼吸器内科・外科病床を合わせた呼吸器センターを立ち上げる予定です。また、阪大病院の特色を生かしたトランスレーショナル研究や臨床試験に、これまで以上に積極的に取り組みたいと考えております。どうぞよろしくお願申し上げます。

(平成23年4月1日就任)



免疫・アレルギー内科科長  
熊ノ郷 淳

私の今後の抱負は、しっかりと臨床体制・医療の基盤を築いていくこと、そしてその中で優秀な若い人材を集め育成していくことです。しっかりと臨床と人材の育成、その基盤の上に、医学・医療を一步先へ進める研究—この点につきましては、病院の先生方、スタッフの皆様のご協力・ご指導・人の輪があってこそと認識しております。是非ともご指導・ご鞭撻賜りますよう、何卒、よろしくお願申し上げます。

(平成23年4月1日就任)



漢方医学科科長  
萩原 圭祐

私は、免疫アレルギー内科においてリウマチ、膠原病などの難治性疾患に対する生物製剤・分子標的薬の治療に従事して参りましたが、漢方治療を併用することで、劇的な効果を示す症例を、たびたび経験して参りました。その臨床経験を踏まえ、「漢方医療の現代化、現代医療の漢方化」をキーワードに、先端治療と漢方医療の融合を図っていくことで、さまざまな慢性の難治性疾患の診療に貢献したいと考えております。どうぞ、よろしくお願申し上げます。(平成23年7月1日就任)

阪大病院の放射線診断科はCTやMRIなどで撮影された患者さんの画像を見て分析(読影)し、主治医に診断結果を報告するのが大きな役割です。現在の医療ではCTやMRIなどの画像診断装置が発達し、非常に多くの鮮明な画像が撮影されます。その画像を見て病気の種類、病巣のありかや病気の原因などが診断されま



放射線診断科

画像を読影する放射線診断科の医師

## 現代医療を支える読影技術

す。主治医が読影するだけでは誤診になる可

能性があります。というのも、主治医は消化器や心臓などそれぞれの専門医で専門の画像に詳しくは読影ができませんが、もし、専門外の病気があったときには見逃すリスクがあるのです。

同科では頭部、胸部、腹部の各グループが各科から送られてくる画像を読影していき、画像診断機器の性能が向上し、画像の数が飛躍的に増え読影する情報も多く、画像診断の専門医でないとなが難しい場合もありました。放射線診断科の医師は「Doctors for Doctors」(医師の医師)と呼ばれるほど重要なのです。

読影した結果は画像レポートを付けて主治医に報告します。定期的に各診療科と主治医を交えてカンファレンスを行い、さらに診断の精度を高めるようにしています。

また、同科は画像検査をする際に各患者さんにもっとも適した検査方法を選択したり、画像を鮮明に撮影するために放射線技師に最適な撮影の方法を指示したりもします。画像診断の交通整理役でもあるのです。

さらに、同科では画像誘導下で針やカテーテルを使って行う血管内手術など低侵襲の手術、インターベンショナル・ラジオロジー(IVR)も担当しています。

### 医療情報部

## チーム医療の要 電子カルテ



膨大な患者さんのカルテを電子化する医療情報部

阪大病院の医療情報部はさまざまな医療情報をデジタル化し、事務効率を上げるとともに電子カルテを導入するなど医療の質や安全の向上に寄与しています。同院は1993年に吹田地区に移転した際、紙による運用をコンピュータ化して情報の共有を進め、効率的で安全なインテリジェントホスピタルの実現を目指しました。旧病院では、部門間の情報伝達のために用紙に記録し、運搬していましたが、画像はフィルムに

焼いて見えていました。カルテは、外来では一人の患者さんについて科ごとに別カルテとなり、病棟では医師の診療録と看護記録が別になっていました。同部ではまず、情報伝達用紙の電子化から進めました。オーダーコンピュータに入力することで正確で迅速に伝達され、事務の効率化も図ることができました。次に画像の電子化を行いました。CTの進歩などで膨大になった画像をデジタル化する

ペースが激減しました。また、比較的容易に患者さんの検査画像を時系列で見ることが可能になり、病気の進行や治療の効果などを確かめるのに効果がありました。画像を読むモニターの高まり、フィルムレス化を達成することができました。「患者1カルテ」にすることから進めていきました。外来患者さんのカルテは各診療科で別々にするのはなく一つにし、入院の場合も医師の診療録と看護

**急募! 平成23年度 中途採用募集**

- 看護師・助産師(正職員)
- 夜間勤務可能で病院等勤務経験者
- 面接試験のみ(随時施行)

詳しくは病院ホームページの看護職員募集をご覧ください。  
<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

問い合わせ先:  
06-6879-5026(人事係)

記録を一体化させました。しかし、紙ベースのカルテでは持ち運びに手間がかかり、一つのカルテを同時に見ることができず、医療従事者が見たい時に見ることができませんでした。2005年からカルテの電子化に取り組み、昨年、完全ペーパーレス化が実現しました。

電子カルテのメリットは、医療従事者がいつでも院内のどこでも患者さんのデータを閲覧できることです。将来的には地域の医療機関と必要な診療情報を共有し、患者さんを地域ぐるみで診ることができるようになると考えています。